

# 定年を迎える教授の 特別寄稿



弘重 壽一  
医学部 総合診療医学講座  
(江東豊洲病院)

私は1984年に本学を卒業して第三内科に入局しました。循環器内科の医師としてCCUでの患者管理と心臓カテーテルを担当しましたが、当時はCCUも冠動脈インターベンションもまだ本邦の草創期でありました。また、電子顕微鏡を使用して心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP)

定年退職に際して  
についての基礎研究を行いました。心臓がホルモンの分泌器官であること自体にも驚くような時代でした。

1995年に昭和大学病院は救命救急センターを開設します。私は開設2年前から救急センターに異動し、救急医学科の立ち上げ準備とその後の運営に携わりました。救急医学はいわゆる「総合診療」であり、私にとつて新しい領域に踏み出した経験でした。

2003年には、翌年から始まる新医師臨床研修制度を見据えて「救急内科E(education)」というチームを救急医学教室の中に作りました。第一内科、第二内

科、第三内科の教育に興味のある先生方にお声掛けして救急医学講座に移籍して頂き、チームとして1次2次内科救急診療を総合的に指導するというものでした。これはその後の「総合内科」、さらには「総合診療科」の前身になりました。

2014年3月に江東豊洲病院が開院しますが、開院時に救急センター長として赴任しました。また、その後大学に総合診療科講座が開設し主宰することになりました。

在職中、循環器内科、救急医学科、総合診療科と所属を変える中で、多くの諸先輩先生にご指導頂きました。また共に学んだ同僚の先生や後輩の先生にも思まれましたという思いです。ここに深い感謝の意を表したいと思います。



高橋 浩二  
歯学部  
スペシャルニーズ口腔医学講座  
口腔リハビリテーション医学部門  
(歯科病院)

## 口腔機能障害への 至誠一貫の取り組み

1977年4月に歯学部第一回生として入学以来、光陰矢の如して定年退職を迎えることとなりました。

学生時代は他大学ご出身の先生方から、熱心な教育ならびに多くの薫陶を賜り、教育委員を2年から6年まで務めました。部活は、東京都高体連支部大会で2年連続団体優勝した柔道に取り組み、全歯体個人戦では6学年まで決勝に進み、上條旗ヶ岡賞を受賞しました。大学院進

学後、道健一教授現・本学名誉教授)のご指導の下、口腔外科のイロハを学ぶとともに、口蓋裂言語に関する研究で、本学最初の歯学博士号を授与して頂きました。

1990年から2年間米国国でGold博士の下で摂食嚥下障害の対応を学び、1994年から2年間は癌研究会付属病院で頭頸部癌手術の研鑽を積みました。2004年6月新設の口腔リハビリテーション科の科長として摂食嚥下障害、発音障害、口腔異常習癖、呼吸障害(閉塞性睡眠時無呼吸)という口腔機能障害の診療に邁進し、現在に至っております。

この場をお借りしてお力添えを頂いた学内外の先生方、本学職員の皆様そして素晴らしい結果をもたらして下さった患者様の皆様に心より感謝申し上げます。

私は退職しますが、後輩たちにより当科の口腔機能障害への至誠一貫の取り組みは続きます。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

昭和大学と歩んで65年  
保健医療学部 看護学科  
(保健医療学部長)

本年3月で定年退職を迎えることとなりました。何故65年、と思われるかもしれませんが、昭和大学病院で生を受けた



巖本 三壽  
薬学部 基礎医療薬学講座  
生理・病態学部門

## 昭和大学に長年御世話になりました…学生時代

私は18歳で医学部入学以来47年間、昭和大学に御世話になりました。学生時代、弓道部、白馬診療部で活動し、3年次には友人と中古自動車で行った。同窓生の訪問を行いました。また、生化学教室に入り浸っていましたので、卒業後2年間の小児科勤務後、生化学教室で学位をとり研究者

となり、大学院では多くの学位論文を指導しました。また小口理事長の肝煎りで創設された至誠塾の2期生として、学校法人の根幹の考え方を学ばせていただきました。2015年からは保健医療学部長・学校法人昭和大学理事を拝命し、管理・運営の立場でも昭和大学と歩ませていただきました。

この65年、多くの教員を受けました。片桐名誉学長は医療人・教育者・研究者としての目標であり生涯の師です。また、小口理事長には、これを実現するにはどうすべきかと考る、物事をポジティブに考えることの重要性を学ばせていただきました。心から感謝を申し上げます。

昭和大学とともに46年間  
富士吉田教育部

私は1977年昭和大学薬学部に入局、大学院薬学研究科前期課程を修了後、米国の製薬企業に就職し、約1年で昭和大学医学部第一薬理学教室助手として戻りました。1987年には米国カンサス州立大学医学部臨床薬理学教室へ留学、その後、教養部化学教室講師として赴任し、富士吉田で約30年が経ちました。赴任当時は大学設置基準の大幅な削減により、教養部と学部との確執の真只中であり、何事にも逆風を感じていた記憶があります。そのような状況の中、私自身、教育で常に心掛けていたことは、「学生自身が理解すること」に重点を置き、「各人がイメージを描き」、「自分の言葉

から、本格的に免疫研究をスタート。ヒト樹状細胞、Th17研究を行い、現在の乾癬病態研究に至りました。薬学に異動して、スタッフの協力もあり、なんとか皮膚科のトップジャーナルに投稿できる成果を出せるようになった。

教育面では、臨床薬剤師育成のために、基礎・病態・臨床といった幅広い教育に従事し、アクティブラーニングでは新しい試みを行いました。

光陰矢の如し、大学で沢山の思い出と有意義な半生をいただきました。お世話になった沢山の諸先生、友人、学生さんたちに感謝いたします。

一方研究分野では、口蓋粘膜の末梢神経支配の研究に始まり、高脂血症におけるフィッシュオイルの作用機序、ストレス負荷時の脳神経の変化、さらには慢性透析患者における長期安定血液透析のための薬理学的研究等を行ってまいりました。特に血液透析に関連して30年以上も臨床研究を継続できたことは、ひとえに小口勝司理事長先生、木内祐二副学長先生のご理解とご協力の賜物と深く感謝いたしております。またこれらの研究で7名の博士論文に因与でき、2件の特許を取得できたことは、自分の誇りと感じております。これは私が46年間「不求一身安を胸に邁進してきた証でもあります。私を育ててく



長谷川真紀子  
富士吉田教育部

## 定年退職に際して

1975年4月に昭和大学薬学部に入局、1979年3月に卒業しました。卒業後、私は故高橋剛男教授からお誘いをいただき、教養部生物学教室に入職し、学生時代も含めると47年間にわたり昭和大学のお世話になりました。大変ありがとうございました。最初は何をどうすればいいのか戸惑いを感じておりましたが、医学部第二解剖

学教室の故猪口清一郎教授のご指導により、加齢に伴う筋線維構成の変化に関する研究を、同時期に故伊藤良作教授のご指導により、土壌動物の生態学的・分類学的研究をスタートさせることができました。教養部という名称が「富士吉田教育」となるのを機に、土壌動物を中心とした研究を行うことになりましたが、富士吉田校舎近郊(富士北麓地域)のアカマツ林をフィールドとして調査を行い、薬学部で学んだ基礎知識を基に、新種記載や土壌汚染が動物や人体に与える影響などについて、研究成果をあげることができました。医療とはかけ離れた分野ですが、土壌動物研究者がいる大学として昭和大学を知ってもらい一助になったのではと思っております。

更なる発展を心より祈りたくしてまいります。

### !! 相談をご気軽に!!

◆ 万が一のための保障準備  
◆ 住宅ローン・資産運用 など

お問い合わせ・ご予約は  
**三井住友銀行 旗ノ台支店**  
東京都品川区旗の台1-4-15  
TEL. 03-3785-3012

三井住友銀行 SMBC